

物差しは一つ。市が動かせるのは、暮らしの固定費と、人の手と時間。お金で買えないものを市がつくる。買えるものは民間に。つくる前に、数える。継承すべきは、経済規模の拡大ではない。へこたれないこと。そして、備える。

税財政1 減税はしない。市債は減らし続ける。新しいハコモノは建てない。10億円以上は着工前に第三者が数える。風の谷の財源に、企業版ふるさと納税を校区指定で 市税4,173億円（2025年度、過去最高）／市債1兆764億円（16年で-16%）／企業版ふるさと納税は実質負担約1割	都市開発2 天神ビッグバンは賛成。民間投資は歓迎。市が先に立つ再開発はしない。ウォーターフロントは風の谷型 この3年で手取り+2%、物価+10%（2022→2025年）／ビッグバン85棟	公共交通3 七隈線の増便・増結を前倒し。ロボタクシーを1年以内に実証、2年以内の実現を目指す。周辺部はシンプルな路線の自動運転バスで回遊 七隈線 18→20本/時（2026年度）／6両化は約360億円・2030年度～
医療4 救急・病院再編・国保料は現行計画を踏襲。市が踏み込むのは予防と在宅。予防と見守りは風の谷でも担う 要介護認定者 7.3万→11.1万人（2040年）／一人暮らし高齢者の60%が孤立死を心配	介護5 毎年4,700人の新しい働き手が要る。市は数えていない→数える。浮いた人手と時間を介護へ 求人倍率3.09倍／介護職員 2.55万→3.97万人（2040年度）	障がい福祉・生活保護6 現状維持。介護に集中 保護率 1,000人あたり25.1（全国の約1.5倍）
産業・スタートアップ7 支援は続ける。オフィスは分散（空き教室を相場より安い賃料で）。AIを活用して給料を上げた中小企業を後から応援。市の委託に賃金の下限 製造業で働く人3.3%（21大都市で最下位）／増えた働き手の2/3は医療・福祉と派遣等	企業誘致8 立地交付金は、生まれた雇用と給与を数えてから続けるか決める。本社機能の誘致は続ける 立地企業数は13年連続50社以上。雇用者数は2,989→438人（-85%）	教育・子育て9 子育ての給付は続ける。不登校は家庭の問題と割り切らない。学校の外に居場所。部活は先生を当てにしない 小学生の不登校 政令市1位／教員採用倍率 8.5→2.2倍
防災・暑さ10 小学校を、災害時も水とエネルギーが3日止まらない拠点に（7区に7校、4年） 猛暑日 2024年39日・2026年38日／築50年超の橋 26%→72%（10年後）	環境・エネルギー11 屋根の太陽光と300kWh級の蓄電池で、校区単位で発電・蓄電。火と水と生き物がいる校庭 福岡市の電気代 15年で+40%	外国人12 追い出すことも、無制限に受け入れることもしない。言葉と暮らしのルールを学ぶ場を、いまある場所で 外国人住民 10年で約2倍（2.9万→6.1万人）／日本語教師等の53.1%がボランティア
行政改革・DX13 市の10個のアプリを一つに。定型事務を1/10。窓口は減らさない、職員は解雇しない。手続きはスマホ、給付はワンタップ 市の手続き 年1,020万件／オンライン手続きの半分は未使用	地域コミュニティ14 「参加する」場所ではなく「来るだけでいい」場所を。週1回、同じ机でごはん。公民館・いこいの家の機能を小学校に 自治会長の58%が70歳以上／加入率 85.7→81.1%／世帯の54.5%が一人暮らし	議会・政治のやり方15 つくる前に数える。約束と結果の答え合わせを毎年議会へ。1人あたり所得を市の指標に。寄附で並び順は買わない 市長提出議案700件 否決0・修正0（14会期）／市の成果指標に所得・賃金は0件